

# 令和7年度 第4回富塚中学校運営協議会

日時:令和8年2月18日(水)14:30~15:30

会場:富塚中学校 会議室

## 次 第

【司会:教頭 記録:岩邊】

### 開会

・開催要件(委員過半数の出席)の確認

1 会長挨拶

2 校長挨拶

3 議長の選出(委員の中から互選)

4 前回会議録の確認

5 熟議 <議長: >

(1) 学校関係者評価について

- ・教務主任より学校評価アンケート結果の報告
- ・結果を踏まえた意見交換

(2) 学校運営協議会 自己評価表について

- ・内容についての確認
- ・来年度の取組目標の共有

(3) 来年度の学校運営基本方針について

- ・校長より説明⇒質疑・応答⇒熟議・承認

☞学校教育目標、目指す子供像、つきたい力、重点項目等、実態を踏まえた方針となっているか熟議する

(4) 夢育やらまいか事業 CS 加算分報告

- ・教頭より報告⇒承認

6 報告

7 連絡事項

・令和8年度 学校運営協議会の予定

▪第1回	令和8年5月13日(水)	14:30~15:30
▪第2回	令和8年9月18日(金)	13:30~15:00
▪第3回	令和8年11月19日(木)	14:30~16:00
▪第4回	令和9年2月17日(水)	14:30~15:30

※ 詳細は別紙参照

閉会

## 令和7年度 第4回富塚中学校運営協議会 出席者名簿

### ■ 学校運営協議会委員

会長	金原 圭吾
副会長	平出 謙介
委員	安間 忠雄
委員	久保田 智彦
委員	池谷 定康
委員	池谷 忠彦
委員	行森 瑞恵（学校支援コーディネーター）
委員	田口 美貴子（学校支援コーディネーター）
委員	山本 由佳（学校支援コーディネーター）

### ■ オブザーバー

市議会議員	関 イチロー
富塚協働センター	松下 慧太

### ■ 学校職員

校長	松原 通恭
教頭	廣野 幸恵
教務主任	岩岡 正紘
生徒指導主事	伊澤 孝浩
CS担当職員	藤原 啓子
CSディレクター	岩邊 三幸

令和7年度 第3回 富塚中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年11月20日（木） 15時00分から16時20分まで
- 2 開催場所 富塚中学校 2階会議室
- 3 出席委員 平出 謙介、安間 忠雄、久保田 智彦、池谷 定康、池谷 忠彦、行森 瑞恵、田口 美貴子、山本 由佳
- 4 欠席委員 金原 圭吾
- 5 学 校 松原 通恭（校長）、廣野 幸恵（教頭）、岩岡 正紘（教務主任）、西村 脩平（1年主任）、村松 郁枝（3年主任）、藤原 啓子（CS担当）、岩邊 三幸（CSディレクター）
- 6 教育委員会 牧野 知子（教育総務課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録制作者 CSディレクター 岩邊 三幸
- 9 議長の選出  
行森委員が、本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

(1) グループ討議

テーマ：「TS全校発表会を通して見えた子供たちの成長と、今後の展望」

- ①TS（富塚スタディ）を通して見えた子供たちの成長
- ②学校目標と来年度の展望

(2) 全体まとめ（来年度の学校運営協議会取組目標について）

11 会議記録

司会の教頭から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) グループ討議

テーマ：「TS全校発表会を通して見えた子供たちの成長と、今後の展望」

議長の指示により、①成長の視点（TSを通して見えた子供たちの成長）、ならびに、②課題・展望の視点（学校目標と来年度の展望）についてグループ討議を行った。各グループのファシリテーターが以下のように発表した。

（◎：ファシリテーター）

【Aグループ：◎岩岡、藤原、平出委員、池谷定康委員、行森委員、山本委員】

①成長の視点

- ・ 「さすがZ世代」と感じるほど、表現力・資料作成・話し方のレベルが高い。
- ・ 質問への回答が的確で、探究内容の理解が深い。
- ・ 生徒自身がタイム計測・司会進行を行うなど主体性が伸びている。

- ・ 発表に活気があり、短時間で要点をまとめて伝えられていた。
- ・ 聞き手を惹きつける工夫（声の出し方、クイズ形式等）が見られた。

## ②課題・展望の視点

- ・ 自分の意見は持っているが、挙手して自ら発言する積極性に課題がある。
- ・ 取材先へのフィードバック、地域の方との意見交流など、学びを循環させる仕組みが必要。
- ・ 探究を“やりっぱなし”にせず、社会参画につながる「次の一歩」へつなげたい。
- ・ 若い世代の地域参加を増やすため、学校と地域の協働体制の強化が必要。
- ・ 保護者が“良い点を書いて渡す”などのフィードバックの仕組みも検討したい。

【Bグループ：◎教頭、村松、西村、安間委員、久保田委員、池谷忠彦委員、田口委員】

### ① 成長の視点

- ・ 生徒が一生懸命取り組み、「ずっと聞いていたい」と感じる発表が多かった。
- ・ 聞き手の生徒がメモを取りながら真剣に聞き、学びが深まっていた。
- ・ 自分の体験をわかりやすく言語化して伝える力が育っている。
- ・ 身近な地域課題に主体的に取り組み、状況を深く理解している。
- ・ 昨年度から探究を継続している生徒もおり、学びが深まっている。

### ② 課題・展望の視点

- ・ 発表を見て「大人自身が子どもの見本になれているか」を考えさせられた。
- ・ 発表の場を学校内だけではなく、地域の大人・初対面の人に広げることで、生徒のコミュニケーション力を伸ばすことになるのでは。
- ・ 学校外での発表機会（地域行事・公共施設等）を設け、学びを社会につなげたい。
- ・ 発表する以上、プレゼンスキルを学ぶ機会や工夫が必要である。

## (2) 全体まとめ

議長長の指示により、来年度の学校運営協議会の取組目標については、今回のグループ討議の結果を踏まえ、以下の意見を基に検討していくこととした。

- ・ 両グループとも、生徒の発表について肯定的な意見が多く出た。こうした委員からの声を生徒に直接伝え、褒めて伸ばす機会としたい。（池谷委員）
- ・ 学校運営協議会は、生徒のがんばりや成長を地域の皆さんと一緒に感じ、見守っていくための大切な場であり、今後は、地域だけでなく、子どもたち自身にも“地域がどう見ているか”を伝えていきたい。（平出委員）
- ・ 本年度の取組目標「学校・家庭・地域が一体となり、目標・課題を共有し、共に成長できる未来を創る」は継続したい。（平出委員）
- ・ 学校運営協議会の活動内容は、まだ広く認知されていないため、より積極的に周知を図る必要がある。（安間委員）
- ・ コミスクだよりは学校連絡網・地域の回覧板で配布しているが、今後は情報発信のあり方について工夫を重ねていきたい。（教頭）
- ・ 生徒会役員や保護者の学級理事が会議を傍聴することで、学校運営協議会の活動を知ってもらうことも有効ではないか。（安間委員）

- ・ 地域の方と共に取り組み、良い形でフィードバックできる協働体制を築いていきたい。(行森委員)

## 12 報告

学校支援コーディネーターより、来年1月中旬に実施予定の、3年生を対象とした高校受験の面接練習（コミスク面談）について、地域の協力を依頼する旨の報告があった。

### その他連絡事項

- ・ 校長より  
別途資料に基づき、浜松市「休日の部活動の地域展開」に関するガイドラインについて、現時点での状況と本校における今後の見通しの説明があった。
- ・ 次回協議内容について  
次回会議では、本日の協議結果を踏まえた学校運営協議会自己評価表についての確認を行う。また、来年度の学校運営方針および学校評価アンケート結果を踏まえた今後の学校運営について協議する。
- ・ 次回会議  
次回会議は令和8年2月18日（水）14：30より、2階会議室で開催する。

## 1 自己評価

### (1) 令和7年度の取組

本年度は、学校教育目標「自ら考え進んで実践し、共によりよく生きる生徒の育成」のもと、つきたい力を「と・み・つ・か」を頭文字に「とりくむ力（課題対応能力）」「みつめる力（自己理解・自己管理能力）」「つながる力（人間関係形成・社会形成能力）」「かなえる力（キャリアプランニング能力）」の4つとおさえ、継続して教育活動を進めてきている。教育目標具現化のための重点目標として、次の3点を掲げて取り組んできた。

- ① 教育課程をキャリア教育（基礎的・汎用的能力）の視点で整理・精選して諸活動の意義を明確化し、振り返りを充実させる。
- ② コミュニティ・スクールの視点から、学校経営構想の目指す学校像を地域と共有し、人財を活用した教育活動を展開する。
- ③ ICTの積極的かつ効果的な活用、教育コンテンツの共有化により、教育の情報化を推進する。

### (2) 学校評価から

授業参観会やTS（総合的な学習の時間）発表会、中学校2大行事である「体育大会」「文化発表会」等、保護者に生徒の成長の姿を実際に目にしていただけの機会を多く設定することができた。また、TS(総合的な学習の時間)やボランティア活動等を通して多くの地域の方に関わっていただいたことで、多くの生徒が自分が社会の役に立てているという自己有用感を感じることができた。

様々な取組の変化がある中で、例年との比較は困難な状況にあるが、経年変化を見るために例年と同様に上記の4つの生きる力にコミュニティ・スクールに関する項目を加えたアンケートを、生徒、保護者、職員を対象に実施した。また、一昨年度より「いじめ防止等のための基本的な方針」に基づく対応についての質問内容に加えた。その結果についても分析・考察をして改善を図るため、御意見をいただいた。

#### ①成果と課題（資料参照）

学校評価の結果では、昨年度と同様に多くの項目で8割を超え、良好な指導ができており、多くの生徒が互いによりよく学校生活を送ることができていると言えるが、数値としては、減少している内容もあることを考慮しなければならない。保護者の結果からも、行事を通して仲間とのつながり深める活動ができていると感じている結果が得られた。しかし、困ったことがあったときに相談を気軽にできる人が身近にいないと感じている生徒が一部いることが結果より読み取ることができた。

各項目の達成度を見ると、本校の課題・改善すべきポイントとして以下の

項目があげられる。

○生徒版 学校評価からみる改善ポイント

とりくむ力	・目標達成のために計画を立てて実践する ・家庭学習の主体的な取組・充実を図る
みつめる力	・自分の長所、得意なことの理解を図る
つながる力	・困ったことがあった時、様々な方法を活用して伝えることができる
かなえる力	・地域の行事や活動、ボランティア活動への積極的な参加 ・自分の将来の姿を考えることができる

○保護者版 学校評価からみる改善ポイント

とりくむ力	・目標達成のために計画を立てて実践する ・家庭学習の主体的な取組・充実を図る
かなえる力	・何事にも目標をもち、それを実現しようと努力する

○教職員版 学校評価からみる改善ポイント

とりくむ力	・生徒が立てた目標を達成するために計画的に実践できるような支援 ・家庭学習の主体的な取組・充実を図る
かなえる力	・生徒が地域の行事や活動、ボランティア活動に積極的に参加できるような支援

三者の学校評価から、「目標を立てた実践」や「家庭学習」、「将来の姿を考える」ことは、本校の昨年度からの課題であり、この点については継続的に指導の改善を図る必要がある。生徒が中長期的に自分のありたい姿を見つめ、今の自分がすべきことを主体的に考えられる姿勢を育むためにも、キャリア教育のさらなる充実を図っていかなければならない。また、いじめの早期発見、そして「学校は楽しく、安心できる場所」を具現化するために、生徒が困ったことがあった際、気軽に相談できる状況を常に作っておかなければならない。

②学校評価アンケート結果を踏まえた次年度の取組

ア 目指す学校像

緑の風が吹く学校

- ・明るく温かく、個性を認め合い、だれもが心地よく生活できる学校
- ・人との関わりの中で、主体的に学び、夢や未来を描き、共に成長できる学校

イ 重点

(ア) 温かく丁寧な人との関わり

- ・土台となる生徒理解と信頼関係づくり
- ・命・体・心を守る 安心安全な環境づくり

- ・あたりまえを考えるよりよい風土づくり
- ・組織的で迅速な対応
- (イ) 教科指導・授業の充実
  - ・規律とやりとり 対話的に学ぶ授業
  - ・ICT の活用と主体的に学ぶ授業
  - ・学びの振り返りと「わかる」授業
  - ・TS(総合的な学習の時間)の継続進化
- (ウ) 工夫ある学校行事 体験を通した温かな集団づくり
  - ・縦割り活動の充実 集団での感動体験
  - ・思いあふれる学年学級づくり
  - ・40 周年節目の 2 大行事と愛校心
  - ・持続可能な企画取組

(様式1)

学校番号 (小・**中** 31 )

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立 ( 富塚中 ) 学校運営協議会長

<本年度の目標>

- 学校、家庭、地域が一体となって目標・課題を共有し、共に成長できる未来を創る。
- 富塚の地域性を生かした学校運営の実現に向け、持続可能な協働体制を目指す。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ **ア** よくできた **イ** できた **ウ** あまりできなかった **エ** できなかった  
(理由)

前年度末に承認した学校運営の基本方針について、年度当初に新校長から改めて説明を受け、内容の確認と共有を行った。  
委員は基本方針への理解を再確認し、共通理解をもって今年度の協議に臨むことができた。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ **ア** よくできた **イ** できた **ウ** あまりできなかった **エ** できなかった  
(理由)

授業参観や発表会参観を通して、生徒の主体的な学びや成長の姿を共有し、学校の目指す生徒像「主体的に学ぶ生徒の育成」に照らし合わせて熟議を行うことができた。  
グループ協議を通して、富塚の地域性を生かした学びや、学校と地域が連携して生徒を支える在り方について、成果と課題を具体的に整理することができた。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ **ア** 充分に行った **イ** 行った **ウ** あまり行わなかった **エ** 行わなかった  
(理由)

協議結果については、会議録やコミスクだよりを作成し、学校ホームページやさくら連絡網を通して保護者・地域へ情報発信を行った。またコミスクだよりについては、自治会の回覧版を通して周知を図った。一方で、協議会の役割や取組の意義がより伝わるよう、発信内容や方法については今後も検討が必要である。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

- 学校、家庭、地域が一体となって、生徒の学びを支える協働体制を強化する。
- 学校運営協議会の活動内容の周知を図り、地域との連携を深める。  
(学校・家庭・地域が連携し、富塚の地域性を生かした取組を通して、生徒が主体的に学び、安心して挑戦できる環境づくりを進めていく。あわせて、協議会の取組や生徒の活動が地域に伝わり、双方向のつながりが深まるような情報共有の在り方を検討していく。)

(様式1)

令和7年5月12日

浜松市立富塚中学校  
夢をはぐくむ学校づくり推進協議会  
代表 平出 謙介 様

浜松市立富塚中学校運営協議会  
会長 金原 圭吾

### 夢育やらまいか事業に対する意見書

令和7年5月12日に開催した学校運営協議会において、下記の意見を議決しましたので報告します。

#### 記

#### 1 学校運営の基本方針を具現化するための意見

- ①子供たちの視野を広げ、専門性をもつ地域の大人と接する機会を増やし、より深い学びの機会を設けるべきである。
- ⇒ 3年生の面接学習で、地域の方々に面接官をお願いする。SDGs 学習に各分野の専門性のある地域の方に指導していただく。また、書写授業に地域の専門家に講師をお願いし指導していただく。読書指導として、地域の方々に協力を願い、読み聞かせも引き続き行っていく。
- ②様々な生き方に触れ、将来への夢や希望を抱く機会を提供すべきである。
- ⇒ 未来授業を実施し、色々な人たちに仕事内容・やりがい等について語ってもらう場を設定する。また、職場体験活動の体験先に、生徒が興味をもった希望する体験先をできる限り提供し、そこで働く人々の勤労観や仕事への誇り、責任感などを実感する機会を設ける。

## 富塚中学校 令和8年度 学校運営協議会 年間計画予定

※ 委員の過半数の出席がないと開催できません。

※ 感染症の感染拡大防止等、状況により、開催が中止、あるいは延期になる場合があります。

回	日時会場	主な熟議内容等
1	5月13日(水) 14:30~15:30 会議室	(1) 学校運営の基本方針 説明⇒質疑・応答、内容確認 (2) 学校いじめ防止基本方針について 説明⇒質疑応答⇒熟議 (学校・家庭でできること) (3) TS 活動について 説明⇒質疑・応答 (4) 学校運営協議会 今年度の目標確認  (5) 夢育やらまいか CS 加算分に対する意見書
2	9月18日(金) 13:30~15:00 会議室 (授業参観を含む)	(1) 特色ある学校づくりについて (授業参観を踏まえて) 授業参観後の感想⇒熟議 (グループ討議) (2) 協議会取組目標に向けた支援の在り方について 熟議 (課題を踏まえた具体策の検討) (3) 学校評価アンケートの項目検討 熟議 (保護者、子供に分かりやすい項目となっているか)
3	11月19日(木) 14:30~16:00 会議室 (TS 発表会参観を含む)	(1) 学校の抱える課題と改善策 (発表会参観を踏まえて) 発表会参観後の感想⇒熟議 (グループ討議) (2) 学校運営協議会の取組の振り返り 熟議 (振り返りと次年度に向けた方向性)
4	令和9年 2月17日(水) 14:30~15:30 会議室	(1) 学校評価 自己評価(分析・改善方策)説明⇒学校関係者評価 (2) 次年度の学校運営基本方針について 説明⇒質疑・応答、熟議⇒承認 (3) 学校運営協議会の自己評価 (4) 夢育やらまいか CS 加算分の報告